



根室管内の豊かな自然を国定公園に 根室地方林活議連の研修会が行われました

昨年6月に環境省は「野付半島風連湖・根室半島」を現在の野付風連道立自然公園を拡張する形で、国定公園の新規指定候補地として選定しました。また生物多様性の保全のため、「2030年までに陸と海の30%以上を保全する世界目標」をG7各国などが約束しています。こうした国際的な動向から、政府が国定公園・国立公園の新設・拡張をすすめている背景、その中で野付風連道立自然公園が指定候補地に選定された理由について外山学芸員が解説されました。

この研修会は毎年、1市4町の林活議連が持ち回りで開催してきましたが、コロナ禍で3年連続中止され、今回は4年ぶりの開催となりました。はじめにニ・ホ・ロで市歴史と自然の資料館の外山学芸員より「根室管内の豊かな自然を国定公園に」というテーマで講演いただきました。

10月24日、「根室地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟協議会」の研修会が市内で開催され、根室管内の市町議員ら35名が参加。根室管内の豊かな自然環境やそれを保護していくための今後の課題等について学びました。

とこで春国岱の北海道が管理する木道部分は、長期間の修復工事を経て8月中旬に一度開通しました。しかしその後すぐに破損等で10月5日から再び通行止めになりました。やはり抜本的な対策が必要だと思えます。また根室市が管理する奥側のキタキツネコースに繋がる木道部分も相当に荒れており、しっかりとした対応が必要と思えます。

再び破損した道管理の木道



講演の後、参加者は春国岱原生野鳥公園に移動して、外山学芸員と根室ネイチャーセンターの掛下チーフレンジャーの説明のもと現地の状況を視察しました。

さらに、今後の取り組みについては、自治体間で産業従事者を含めた合意形成を図ること。地域の大切な宝である自然環境・生物多様性、産業を持続可能にしていくためにも今回の国定公園化をうまく働かせることが大切と述べていました。

また今後の地域課題として、▽フレシマなど今の国定公園の想定範囲から外れている部分に対し、指定範囲を精査する必要がある。▽国定公園の指定と地域の漁業・酪農業・林業など産業との共生・折り合いをどのようにつけていくのか(国定公園内でも「普通地域」として指定されると漁業に必要な行為等は制限されない)ので上手に共存することができると。

▽再生エネルギー発電施設について、国定公園化を通じて自然環境を保全するためのゾーニングを含めて、適切な配置をすすめていくこと、等について指摘されました。

まちなかサロン恋問 10月末で営業休止



商工会議所などによる根室市中心市街地活性化推進協議会は緑町にある「まちなかサロン恋問」について、10月31日で現在の建物での営業を休止したと公表しました。老朽化等の理由から所有者が現在の建物を今年中に取り壊すためとのことでした。

まちなかサロン恋問は、市街地の空き店舗を活用して魅力ある商店街の活性化を図るために、根室市中心市街地活性化推進協議会が2004年に開設。翌年に現在の建物(旧すずき時計店跡)に移転されました。訪れた方が自由に利用できるオープンスペースのほか、商店街などの各種イベントや市民活動の場として活用されてきました。また市教育委員会の青少年相談室やふれあいくらぶ弥生も昨年に移転するまで同じ建物の2階で運営されていました。同協議会は営業休止後の今後の事業展開について検討、協議するとしています。

植樹・育樹活動～みどりの森づくり大作戦～

10月23日、根室市は「植樹・育樹活動」を牧の内「明治自然環境保全区」で開催。市民ら約60名が参加しました。



根室市ではこれまで5月末に穂香の根室市民の森で「植樹祭」を開催していましたが、コロナ禍で3年ほど中断していました。今年度から育樹と植樹を兼ねて普及・啓発することを目的に、道条例の「北海道育樹の日」(10月第3土曜日)に合わせて、環境整備の「育樹」と「植樹」活動を行う形式にしたそうです。

参加者は二手に分かれ、植樹と育樹をそれぞれ体験しました。

育樹は昨年と一昨年に植樹された部分の整備として下草を刈る体験を行いました。植樹の方は、表層部を重機で掘り起こした土に、カラマツの苗木約400本を植えました。参加者は泥濘に足を取られながらも楽しそうに作業していました。

この明治自然環境保全区は周囲がシカ柵に守られて食害が少なく、これまで市が明治社員ボランティアと協働で実施した植樹後も生育状況が良好とのことでした。



なお、これまで市民の森で植樹をしてきた箇所はエゾシカ食害や気候の影響などで生育状況が悪く、今後の成長が見込めないそうです。市農林課によると今後は市民の森では新たな植樹や大きな整備等は行わず、過去の添え木などの残骸は景観的に配慮して対処するそうです。ただ木育活動等で使用できる箇所は、今後どうするか調査研究していきたいと説明していました。